

海老名市立柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和3年度 第2回)

- 1 **日時** 令和3年12月3日(金) 10:00~12:00
- 2 **場所** 海老名市立柏ヶ谷小学校 家庭科室
- 3 **委員** 山崎久男委員長、渋谷昇副委員長、秋島優子委員、小幡信司委員、大貫節子委員、大貫寛委員、吉田茂男委員、中垣洋委員、櫻井信夫委員、松本孝夫委員、齊藤裕子委員、山本宗孝委員、洪まり委員、麻生仁(校長)、姫野珠実(教頭)、奥田五成(教務主任)
※志村政憲委員、森山輝男委員、植木文夫委員(以上3名欠席)

- | | |
|-------------|--|
| 【議題】 | <ol style="list-style-type: none">1 校長挨拶・委員長挨拶2 学校の様子について<ol style="list-style-type: none">① 新型コロナウイルス感染症対策等② 学校行事について③ 学年紹介(3, 4学年)動画視聴④ 生き方学習(6学年)について3 学校評価アンケートについて4 60周年記念事業について5 その他(事務連絡等) |
|-------------|--|

4 会議の内容

(1) 校長挨拶

今学期は、これまで実施が難しかった行事を行うことができ、今週は5年生が野外教育育活動、来週は修学旅行と学期末に向けて校外学習が続く。本日は、活発なご意見をお聞かせいただき、学校運営に生かしていきたい。

委員長挨拶

自治会で回覧されてくる学校だよりを楽しみに読んでいる。9月号では、子どもたちから募って決定した学校目標のことが書かれており、子どもたちが自分たちで考えて決めていくという取り組みがとてもよい。

(2) 学校の様子について

① 新型コロナウイルス感染症対策等

麻生校長：海老名市の感染レベルが1になったが、これまでと変わらずに感染症対策をしっかりとしている。気温が低くなってきているが暖房を入れながらも換気をし、手洗いの徹底もしている。レベル1になったことで、音楽科

の歌唱指導や家庭科での調理実習が可能になり、児童もとても楽しそうに学習している。2学期の終業式は、全校児童を体育館に集めて行う予定。

櫻井委員：子どもたちのワクチン接種の状況は？

麻生校長：市からの通知を受けた12歳以上の児童（6年生）が接種している。

山崎委員長：子どもたちの間で、ワクチンを接種したか、していないか等、話題になっているのだろうか。

奥田教諭：特に話題にしている様子はない。

山崎委員長：マスクの着用について保護者や子どもたちからの意見はあるか。

麻生校長：今のところはない。マスク着用にご協力いただいている。

齊藤委員：あそびっ子で活動している子どもたちも、しっかりマスクをしている。意識の高さを感じる。手洗いも定着している。

吉田委員：換気はとても大事なので、引き続き注意喚起をしてほしい。

② 学校行事について

麻生校長：*2学期に実施した諸行事と今後実施予定の行事についての報告をした。（運動会、野外教育活動、修学旅行など）

山崎委員長：コロナ禍で行事を行う上で注意したことや今までと違った指導はあったか。

奥田教諭：3年生の遠足では、電車に乗る前や昼食前など、手指の消毒をした。

小幡委員：柏ヶ谷小の運動会は保護者の参観が可能であったが、その判断は学校ごとなのか。近隣の学校で情報が行きかっており、それぞれに違う対応であったようだが・・・。

麻生校長：学校規模や事情による。基本的には足並みをそろえるようにしているが全く同じというのは難しい。

中垣委員：ノロウイルスが流行することも考えて、手洗い指導もしっかりしてほしい。

③ 学年紹介（3, 4学年）動画視聴

山崎委員長：例えば、子ども自身がインタビューをするなど、児童が考えて作ったかどうか。さらに、それを他学年同士で見合うという活動をしてみてはどうか。

中垣委員：できればは多少良くなくても、子どもが作ったものがよい。

秋島委員：先生方には忙しい中、このような動画を作ってもらえて、ありがたい。子ども達の普段の様子がわかり、元気な様子が伝わってきた。

④ 生き方学習について

麻生校長：第1回の学校運営協議会でお願いした、6年生の総合的な学習（生き方学習）について、松本委員と吉田委員にご協力いただき、授業が実現した。子ども達に大変よいお話をさせていただいたことに感謝している。

松本委員：あきらめずに最後までがんばるということを守って生きてきたことを子ども

も達に伝えた。子ども達も喜んでくれたが教師も興味深く話を聞いてくれた。緊張したが、本当によく話を聞いてくれたのでうれしかった。

吉田委員：6年生に「生き方」ということをどのように伝えたら良いか悩んだが、道徳的・精神的なことについて話した。初めに、自分は70年前（柏ヶ谷小が分校だった頃）の柏小の児童で、みんなの先輩であることを伝え、子ども達との距離感を縮めることができた。どこまで、子ども達に伝わったかわからないが、次の機会があれば別のテーマで話してみたい。

（3）学校評価アンケートについて

麻生校長：質問項目は昨年度と同様。保護者・児童への配付をし、現在回収作業中。学校便りにて、結果の公表をするが、その前に第3回の学校運営協議会で結果と考察についてお示しする。

（4）60周年記念事業について

麻生校長：2年後に開校60周年を迎える。50周年の時は記念冊子の作成、モニュメント（日時計）の設置、航空写真撮影等かなり大規模な取り組みがあったようだが、60周年時にどのようなことをしたらよいか、ご意見をいただきたい。

齊籐委員：40周年の時は、冊子と下敷き（航空写真）を息子がもらってきた。保護者が参加する行事はなかったように記憶している。紅白まんじゅうが配られたかもしれない。

櫻井委員：60周年だからといっても、大がかりなことはやらず、子ども達が楽しめる演劇鑑賞などの記念公演などをしたらよいのでは。

秋島委員：柏ヶ谷中の20周年記念の時は、体育祭をいわゆる冠行事にしたり、植樹をしたりした。（10周年時→かしわの木 20周年時→楠の木）

櫻井委員：タイムカプセルを埋めるというのもある。

小幡委員：タイムカプセルは、掘り起こすときに大変なこともある。

齊籐委員：柏ヶ谷小のキャラクター（かしパンダ・かしわんこ）が描かれたクッキーをもらったことがある。学区内の柏ヶ谷小卒業生保護者が営む洋菓子店に注文したと聞いている。地元の店で作られたというよさも感じられた。

山崎委員長：東柏ヶ谷小では、何かの折にふれて、校章入り（焼き印）の煎餅が配られている。

大貫寛委員：自分は50周年記念時の実行委員だった。そのときは日時計の設置がメインだった。実行委員の選考や費用の面等、大変だった。60周年で何かをやるなら、子ども達が自分たちで記念になるものを何か作って、思い出に残るようにしてはどうか。

山崎委員長：実行委員も子ども達で編成し、子ども達が自分たちでつくる60周年記念イベントがよい。

山本委員：PTA本部としても、学校と連携して事業を進めていきたいと考えている。来年度くらいからの始動が理想。そのためには、ある程度の骨子を今年度中に考え、来年度の本部役員に引き継ぎたい。

山崎委員長：資金の問題、実行委員のメンバー構成等が課題になるだろう。

(5) その他

大貫節子委員：数人の不登校児童がいるとのことだが、その児童に対するフォローはしているか。またどんなことをしているのか。ヤングケアラーの有無についても聞きたい。

大貫寛委員：登校を渋っていたように見受けられた子どもの姿が最近見られなくなった。

麻生校長：該当児童とその保護者との関わりや支援としては、電話連絡やタブレットを活用した連絡、コミュニケーション、簡単な学習をしているがそれも難しい児童もいる。定期的に該当児童のケース会議を開催し、対応を検討して、担任だけでなくチームとしての支援をしている。また、必要に応じて、医療機関や市の関係機関・部署に繋ぎ、対応をしている。ヤングケアラーについては、市としても対応を開始した。中学生へのアンケートなどで実態把握につとめていくところである。

松本委員：このところ、地震が多発しているが防災訓練はしているか。

麻生校長：年間行事として、火災・地震・不審者対応・保護者引き取りの訓練を行っている。過日の震度4の地震発生時の日は、校長から放送で災害に対する心構えについて伝え、注意喚起を行った。また、不審者対応については、児童対象の訓練だけでなく教職員対象の訓練を行っている。

櫻井委員：東柏ヶ谷小で「昔あそび」の授業に協力した。柏ヶ谷小でも実施予定はあるか。もし、実施するとしたら、各自治会からの協力者の人数を半分にしたほうがよいか。

吉田委員：昔遊びといっても、実際にベーゴマなどの遊び方を教えられる人材が少なくなり、協力者を募るのが難しくなっている現状がある。

齊籐委員：「昔あそび」「稲作活動」等の授業サポートは、学校応援団に連絡をしていただけ、そこから各地域の自治会に依頼をしている。(今年度も稲作をこの流れで実施中)実施するとしても小規模になると思われる。昔あそびの授業を1月に実施するなら、12月中には予定・計画を示していただく必要があるが、その計画をどのように捉え、判断するかは自治会次第かもしれない。

山崎委員長：愛知県で起きた中学生の生徒殺傷事件について。他県のことと捉えず、教師が自分事として考え、研修をすとか、職員会議での案件として扱い、話し合いの場をもつなど、自分事として捉えるべき。また、緊急放送などで子ども達に話すという機会をもつとよい。

大貫節子委員：近頃の保護者は、共働きも増えたたこともあり、子どもと向き合える時間が少ない。心配事や悩みを抱えていても、それを聞いてあげる余裕もないのではないか。子どもに寄り添い、フォローできるところがあれば、忌まわしい事件も防げるかもしれない。

麻生校長：月2回、学校にカウンセラーが来校し、悩みを抱えていたり、フォローを必要としたりする保護者や児童に対してカウンセリングを行っている。また、家庭内のサポートなど実働的支援として、スクールソーシャルワーカーを派遣しているケースもある。しかし、学校側がこれらのような機関につなげたいがつなげられないケースの児童や家庭に対してのフォローが困難である。

秋島委員：子どもにとって一番身近である親が子どもの現状を把握していない場合もある。親の次に子どもに近いのは学校（教師）。学校の先生は観察力よりも洞察力が求められている。それを求めるならば、先生方の学校現場での忙しさを軽減させる必要がある。そうすることで気持ちに余裕ができ、より子ども達に寄り添う環境が整い、洞察力も養われる。しかし、洞察力が備わっていても、SNSなどの裏の世界に潜む、見えないものへの対処は難しく、課題である。

山崎委員長：次回の学校運営協議会で取り上げてほしい案件はあるか。

大貫寛委員：学校運営協議会のメンバー構成についての見直しも含めた話し合いをしたい。

吉田委員：PTA活動の現状や具体について知りたい。

閉会の挨拶

渋谷副委員長：新型コロナは落ち着いているとはいえ、新しい変異株が出てきているとのこと。感染症対策をしっかりと行ってほしい。行事もたくさん実施されているようだが、「with コロナ」を忘れず、あまり無理はしないようにお願いしたい。

事務連絡等

次回 第3回学校運営協議会は、令和4年3月11日（金）10：00より（会議室にて）